

## 【令和7年4月知事定例記者会見】 4月25日

### ● 多様な人材が定着、活躍する佐賀県

#### 人材確保は戦略的に～佐賀県庁の取組～

##### ・佐賀県庁は多様な人材の宝庫

中途採用枠で入庁した職員の割合は17.2%で日本一。新規採用行政職に占める民間等の経験者は4割。

我々の目的は、佐賀県民を幸せにする県民福祉の向上。多様な県民に向き合う県庁職員も多様な人材がいるべき。様々な経歴を積んだ職員を意識的に採用してきた結果。

女性管理職の割合は、さらに増やしていく。女性職員は、職責を果たす以上の仕事をしてくれる。多様性を高めることが、佐賀県の成長を加速させる。さらにこれを促進させたい。

佐賀県の行政事務職の採用倍率は9.57倍。47都道府県で第1位と、狭き門になった。中途採用と一般採用のバランスを取りながら進めていく。

##### ・様々な集団とのコラボレーション

コロナ禍では全日空と連携。

JAXAとは、人材育成や様々な知見を防災や農業に生かす取組も進んでいる。

クリエイターとさがデザインの取組では、アニメ・ゲームでサガプライズ！のコラボも生まれた。

##### ・“志”あるCSOが活躍

佐賀県の特色は、CSOが様々な行政施策にかかわっている。特に、福祉・子育て系と防災分野。まさにパートナーだと言える。

県外からは16団体が進出。CSOがネットワーク化され、相乗効果を生んでいる。

##### ・男性職員の育児参加を後押し

佐賀県は行政職の育児休暇が遅れている、と県民の皆さんからご指摘を受ける。ここで、経緯を説明したい。

令和3年から、「ハッピー・ツー・ウィークス」として2週間の休暇をモデル化した。これは、年休と育児関連休暇のセットで、育児休業が入らない施策だった。そのため、ほぼ全員が取得したにもかかわらず、国の統計では育児休業なしとみなされた。

令和6年5月からこれを見直し、育児休業を入れ、期間を1か月に増やした。育児休業を入れると給付金で所得の8割以上を補填され、取得率が拡大する転機になった。

### いま、あらゆる分野で人材の確保が喫緊の課題

1965年の佐賀県の有効求人倍率は0.26倍、現在は1.23倍。昭和40年の佐賀新聞には、大阪府知事が佐賀県庁に来庁し、大阪への就職を斡旋する集団就職の記事がある。この時代に育った人は、就職は都市部という考え方になっている。しかし、現在の県内は人手不足。

高校生の県内就職率が低い。平成30年度は低い順に、青森、鹿児島、佐賀、宮崎。当時の就職率は56.9%。その後、「プロジェクト65+」の効果もあり、令和6年は66.3%に上昇。

賃金アップの支援を行い、最低賃金が九州で2番目に高い。この支援を利用して賃金をアップした企業には、設備投資への補助も行った。企業の付加価値を高め、賃金も上がる、ダブルの上昇を実現した。

また、外国人が働きやすい環境づくりと、選ばれる県内企業を目指し、企業の情報発信も戦略的に行っている。

### 新メニュー① SAGA PAPA 育休アシスト奨励金

民間企業の育休取得率を伸ばすため、今年度から育児休業を取得する男性に給付金を支給する事業を始める。

ほかにも、「子育てし大県“さが”プロジェクト」事業では、“mamari”との連携した子育て相談事業、中学3年生のピロリ菌検査の無償化、マイナス1歳からのイクカジ推進なども行っている。

### 新メニュー② 佐賀県奨学金返還支援事業

県外に進学した学生への県内就職を促す事業。県内企業が奨学金返済の肩代わりをした場合、佐賀県が1/2を補助する。

多くの学生が18歳を契機に県外の大学に進学する。そこから、就職を佐賀県内でしてもらうのは並大抵ではない。官民連携で選ばれる佐賀県を目指す。

## ● 日本を代表する銘茶 佐賀県の「うれしの茶」

### 新茶のシーズンを迎えます～知れば なおうまい うれしの茶～

佐賀県は、お茶の産地としての規模は小さい。うれしの茶の勝負どころは、質であり価値。うまみや甘みを凝縮できるよう8割以上が被覆栽培。手間を惜しまず栽培し、全国の品評会では、2年連続2部門制覇。産地賞1位も嬉野市。

### 大切な うれしの茶 を未来へつなぐ

嬉野市にある茶業試験場を中心に、品種転換の支援、工場の集約支援、技術の向上などを工夫。併せて、民間の皆さんのアイデアで、グリーンレタープロジェクトやティーツーリズムを企画。うれしの茶の価値を最大化する方法を模索し事業化できた。

グリーンレタープロジェクトは、お茶を手紙のように大切な人に贈ってほしいという取組。各農家こだわりのお茶を一煎分の個包装にした。パッケージのデザインは、ミヤザキケンスケさん。最近では、ノリやようかんも個包装が佐賀県の特徴。小さなプレゼントにして贈るのがおしゃれ。

生産者と茶畑でお茶を楽しむティーツーリズムという考え方は、お茶の価値を最大限に生かした形。

### 第80回全国お茶まつり 佐賀県で開催！

令和8年度、27年ぶりに佐賀県で開催する。全国から2万人以上の関係者が集まる祭典。8月が全国茶品評会、9月が入札販売会、11月に式典。

佐賀の誇り、うれしの茶を盛り上げていきたい。うれしの茶は、冷茶もおいしい。

## ● 佐賀県立大学（仮称）の開学に向けて

### 佐賀県の「学び」を取りまく状況

佐賀県は、人口当たりの15歳未満子ども割合が、全国3位以内を25年間維持する子どもの割合が多い県。しかし、18歳で多くの人が県外に出る。ただし、28歳くらいで戻ってくる人も多い。18歳から28歳の人口が少ないのが課題。

原因の1つは、4年制大学が全国最少の2校と少ないこと。2校しかないのは、佐賀県と島根県。島根県は、うち1校が島根県立大学。隣の長崎県は8校。

平成元年の高卒者は12,000人、4年制大学進学は2,000人。少子化で、昨年の県内高卒者は7,000人、4年制大学進学は3,500人。実数で1.75倍に増加。その3,500人中3,000人が県外に進学。少子化といえども、大学進学者は増えている。この数字からも県立大学は必要だと考えた。

平成元年から35年間で、公立大学は39校から101校に増加。公立大学がないのは、栃木、徳島、佐賀、鹿児島島の4県。これからの時代に合った大学をつくりたい。

### 佐賀県立大学（仮称）の開学に向けて

県大の場所も決まり、建物の設計を進め、申請に向けたソフトを組み立て中。このま

ま進むと、設置認可申請が令和9年10月、開学は令和11年4月。

今年に入り、協力事業所との交流会を開催、企業の関心も集まっている。

### ゼロからつくる！ 目指すのは チャレンジを続ける大学

目標に掲げているのは、「日本一プロジェクトが生まれる大学」「“チェンジ・メーカー”を育成」。

ポリシーは3つ。

- ・ディプロマ・ポリシー：学生に身につけてほしい能力。
- ・カリキュラム・ポリシー：県立大学の“学び”のイメージは、県全体をフィールドにしたPBL。
- ・アドミッション・ポリシー：入学者に求めること。

さらに、学外との連携で「高大連携」を推進したい。県全体がフィールド。企業や市町に伴走支援を行い、企業と連携しながら地域のシンクタンク機能を設ける。

### 佐賀県立大学での学び①

PBLとは、課題解決型学習、Project Based Learning。課題を自分たちで発見し、解決策を模索する学び方。フィールドワークを行い、本質的な課題を探し、解決策を考え、現場に提案する。県内の課題に向き合い考え、県全体を学びのフィールドにする。

卒業後、実践的な課題解決能力がつく社会実装した学生を輩出したい。

### 佐賀県立大学での学び②

小・中・高・大と分断されているのが日本の教育の特徴だが、横につながってもいいと考えた。県大に、高校生が集ったり、大学生が高校のチューターに行ったりするような「高大連携」。小・中学生が県大を訪れて、今の学びが将来どう生きてくるのかが見通せるような連携。単なる大学ではなく、佐賀県全体の学び質の向上を図りたい。

「PBL」や「高大連携」は、25日から動画で紹介中。

- 世界水泳シンガポール大会競泳カナダ代表が SAGA アクアで事前キャンプを行います

世界水泳福岡大会の際、オーストラリアチームが SAGA アクアで合宿し、好評だった。それを聞いたカナダチームから、シンガポール大会の事前キャンプの申し入れがあった。

カナダは、パリオリンピック競泳の金メダルが3個。すべてマッキントッシュ選手が獲得。現在、カナダでは選考会を実施。きっと彼女は選ばれ、佐賀入りするだろう。28日にMOUを締結予定。

国際基準の SAGA アクアは水深 3 メートル。国スポのため新たに建設するプールでも普通は 2 メートル。SAGA アクアは床が可動式で、普段は水深を調節している。県民は、2 時間 500 円で利用できる。

● ロマンは終わらない 石棺墓レプリカが完成しました！

吉野ヶ里遺跡から出た石棺墓。卑弥呼の時代ということで期待もあり、全国に向けて発表した。実際は、土砂が流入して溶け出していた。現在は、再度埋め戻し、レプリカをつくった。4 月 26 日から公開開始。